

平成27年8月 データから見た業界の動き

■ 概 況

8月の景況は、お盆休みもあったことから、製造業では稼働日数も少なく売上、受注量が減少した。

また、猛暑や台風等の天候の影響を受け青果物や食肉等の食糧品を中心に価格が高騰したため、消費マインドはこれまでより更に低下している。

しかし、円安で日本での滞在や買い物が割安になっているのに加え、政府による査証（ビザ）の発給要件緩和や消費税の免税制度拡充等により訪日旅行者によるインバウンド消費は宿泊業を中心に拡大が続いている。

今後、原材料高や人手不足によるコストの増加が続く中で、中国経済の急激な景気減速の影響による輸出の減少や生産調整の長期化が予測されるため、近い将来、製造、鉄鋼、宝飾業界では経費状況の悪化を訴える事業者が増加することが懸念される。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	中元商戦は日本郵政のカタログ販売中止の影響により減少。生食材等は冷凍おせちの前倒し受注により全体の売上は前年同月比100%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品やOEMが低迷。好調だった台湾への輸出も停滞したため、全体の売上は前年同月比94%。国内の消費マインドの低迷や原材料の高騰により採算は厳しい。
食料品（製麺）	観光シーズン等により団体客用の食材としての受注が目立つ。
繊維・同製品（アパレル）	受注が増加傾向にある。
木材・木製品製造	昨年同月は消費税増税による駆け込み需要後により売上等は減少したが、今年例年並。しかし、見積件数から見て先行き不透明。
窯業・土石（砂利）	山梨県内の公共事業が前年対比2割減のため、厳しい状況が続いている。
窯業・土石（山碎石）	前年同月比(4～7月合計)で10%以上の製品出荷量が減少し、さらに諸資材の高騰により利益率は下降気味である。そのため設備投資が出来ない状況が続いている。
鉄鋼・金属①	横ばい状態。中国経済の影響でアジアの生産は下降。北米はまずまずだが、9月にゼロ金利解除になるとどうなるか分からない。今後の見通しがたかない。
鉄鋼・金属②	特に悪い状態。お盆等の休業日数を考慮しても落ち込みがひどくリーマンショック時と同様。
電気機器	中国経済の減速感はあるが、昨年よりは今年の方が影響感が良い。特に、自動車関連や半導体製造装置関連、医療機器関連、航空機関連等は好調。
宝飾(研磨)	8月に開催されたジャパンジュエリーフェア(3日間開催)だが、世界同時株安の影響により海外からのバイヤーのキャンセルが目立った。特に、中国からのビックバイヤーのキャンセルが相次ぎ取引が低迷した。
宝飾(貴金属)	これまでは年末商戦やクリスマス向けの製造販売を考慮していたが、インターネットやテレビショッピング等の販売チャンネルが変化したことで売上確保が難しい時代になった。

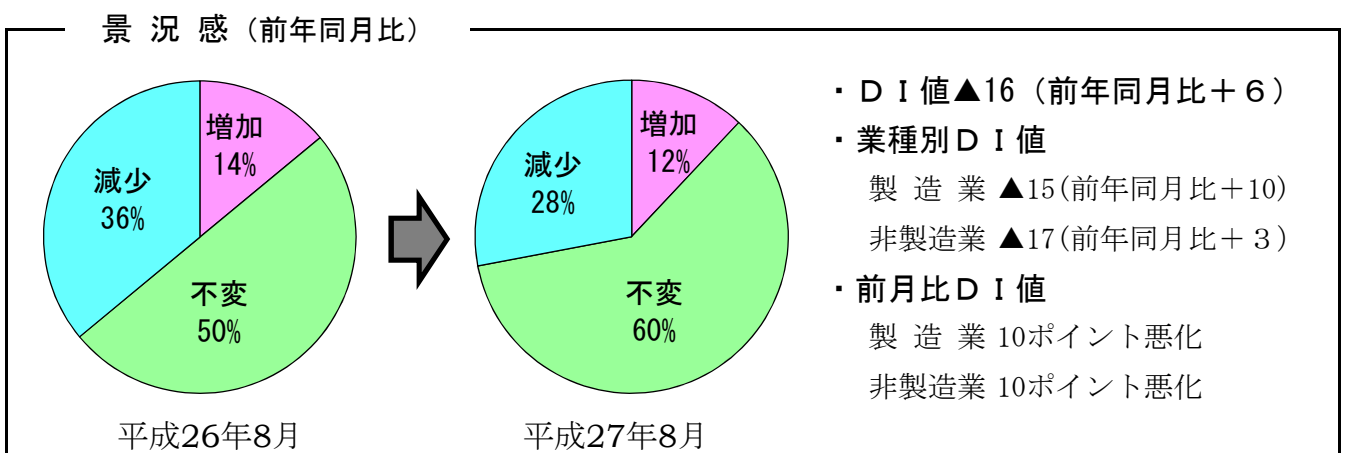
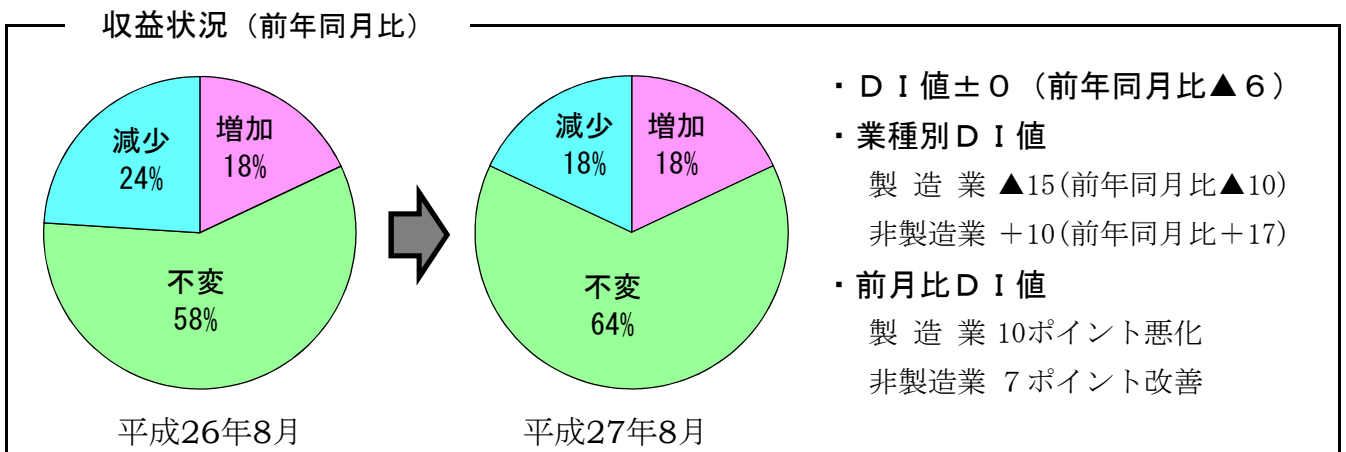
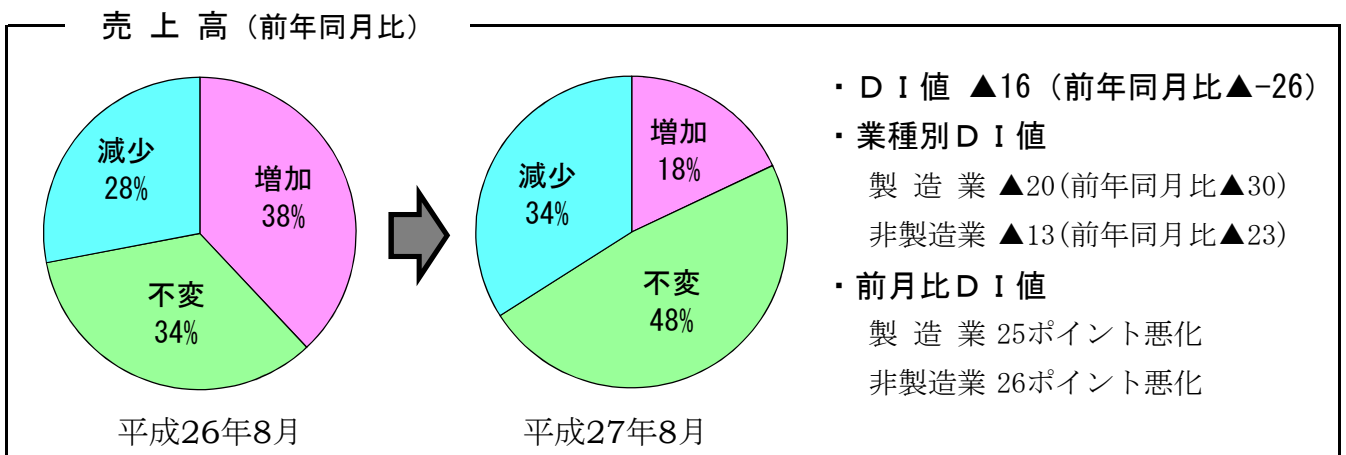
● 非製造業

卸売（紙製品）	中国経済の悪化の影響により9月分の入札が10～20%ダウン。
卸売（ジュエリー）	8月に開催されたジャパンジュエリーフェア（3日間開催）だが、中国経済の悪化から中国のビックバイヤーの来場減により取引が低迷した。国内流通は、相変わらず厳しい。
小売（青果）	天候不順から入荷量が減少したため、販売価格は10～20%増となり売上不振に繋がった。
小売（食肉）	以前、仕入価格は高値の状況が続いているが販売価格に転嫁しきれず収益状況は厳しい。
小売（電機製品）	猛暑効果により地域店・量販店ともに売上は前年同月比112%。地デジ以降、低迷していたテレビが上向傾向になってきた。
小売（石油）	中国経済の悪化等により原油価格が下がり、それにより卸売価格も下がっているが、値下がり以上に小売価格が軟化傾向にあるため粗利益を圧迫している。
商店街（甲府）	2店舗が新たに開店したが、昨年末に開店したばかりの店舗が閉店。猛暑や台風等の天候不順により来街者の減少が著しかった。
商店街（大月）	夏祭りイベントも盛會に終わったが、商店街の売上には結びつかなかった。
不動産取引	東京からの物件買い取りの依頼も多いが値引き交渉が厳しい。農地の耕作放棄地が増加傾向にある。
宿泊業（甲府）	外国人宿泊客が増加しているため、これまで低価格だった宿泊代を正常価格へ近づけるホテルも出始めた。しかし、首都圏に比べると未だ低価格販売が続いている。
美容業	猛暑の影響でカットを希望する来店者が増加した。
廃棄物処理（産廃系）	中国経済の悪化の影響もあり企業からのプラスチック廃棄物の有償取引が困難な状況になっている。今後、逆有償で引き取らなければならない事態も起こりうる状況にある。
警備業	売上における前年同月比は10%減少しているが、前月比では5%増加、販売価格や取引条件も改善され約2%増。警備員の新規採用が困難な状況にあるため、警備員の高齢化が進み建設現場からの要請に対し対応できない場合もでてくる。
建設業（総合）	8月の県内公共工事動向は、前年同月、件数1%減少、請負金額33%増加となったが、累計では件数で10%、請負金額9%減少した。
建設業（型枠）	8月に入り工事物件も出始め上半期に比べ明るい兆し。
建設業（鉄構）	ある程度の仕事量は確保し、稼働率も高い。
設備工事（電気工事）	公共工事も増えてきているが、全体に物件数や請負金額も少ない。
設備工事（管設備）	公共工事の発注の落ち込みにより売上は微減。円安による原材料高や技術者の不足等による人件費の増加により販売価格は上昇傾向にある。
運輸（タクシー）	インターハイ等のイベントがないため、昨年に比べ売上は大幅減。
運輸（バス）	外国人旅行客等の需要増や新運賃制度による売上増加に伴い、社員の給料を増やすことができた。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2014/8	2015/7	2015/8	2014/8	2015/7	2015/8	2014/8	2015/7	2015/8
売 上 高	10	5	-20	10	13	-13	10	10	-16
収 益 状 況	-5	-5	-15	-7	3	10	-6	0	0
景 況 感	-25	-5	-15	-20	-7	-17	-22	-6	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D I 値



昨年対比グラフ

売上高

	増加	不変	減少
平成26年8月	38%	34%	28%
平成27年8月	18%	48%	34%

収益状況

増加	不変	減少
18%	58%	24%
増加	不変	減少
18%	64%	18%

景況感

増加	不変
14%	50%
増加	不変
12%	60%

減少
36%
減少
28%